

## 第1回 村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議 議事要旨

**日 時** ■ 2019年（令和元年）10月16日（水）午前10時から午前12時

**場 所** ■ 藤沢市役所 本庁舎6階 6-1会議室

**出席者** ■（敬称略）

会 長：柳沢 厚

副会長：中島 直人

委 員：（五十音順）相澤光春、饗庭功、加藤直人、佐保田俊英、竹村裕幸、  
仲手川仁志、林岡治、林喜太郎、林弥史、三上雅之、八文字弘行、渡場清治、  
オブザーバー：神奈川県、鎌倉市、

事務局：都市整備課

**傍聴人数** ■ 8人

**議事次第** ■ 1 開会

2 議事

① 会議設置について

② 村岡新駅周辺地区におけるまちづくりの方向性について

3 その他

4 閉会

**配布資料** ■ 【資料1】村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議の目的及び検討の流れ

【資料2】（案）村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議設置要綱

【資料3】（案）村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議傍聴要領

【資料4】村岡新駅周辺地区におけるまちづくりの方向性について

**議事概要** ■

① 会議設置について

○事務局より資料1、資料2、資料3を説明。

○「村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議設置要綱（案）」に対し、了承をされた。

○事務局より委員紹介

○委員の推薦・賛同により、柳沢厚委員が会長に選任された。

○柳沢会長からの指名により、中島直人委員が副会長に選任された。

- 会議の公開について、「村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議傍聴要領(案)のうち、「前日までに申し込まなくても、定員に達していない場合は傍聴可能とする」ことに変更することで、了承を得られた。

## ② 村岡新駅周辺地区におけるまちづくりの方向性について

- 事務局より、資料4を用いて説明。

### ご意見等(項目に分けて整理しています)

#### [村岡駅周辺地区のまちづくりの方向性について]

- 玄関口にふさわしいまちづくり。最先端技術の拠点。
- 観光や交流面の視点が抜けているが、世界に向けた、情報発信拠点になりうる。
- 健康・安全・スポーツ。
- 今までの研究開発拠点は白い箱の中に閉じられたというイメージがあるが、ここでは一見遠いものが身近に感じられるように研究開発拠点をとらえていく、「開かれた」がキーワードだと考える。そうすれば、おのずと観光ともつながるのではないか。
- 防災上、生き残れるということが最優先のベースとし、その上に、緑と歴史という地区の持つ資産をどう生かすか。最後に、研究開発拠点を形成の仕方で地区を特徴づけていくといいのではないか。
- 研究開発にリアリティをもてるようにすることが必要のようだ。まちとつながるといのが今日のキーワードではないか。

#### [検討の視点]

##### 研究開発拠点関連

- 研究開発拠点として考える際には、湘南アイパークと同じことをやるのではなく、このまちづくりは違った形で機能を補完し合うような考えも必要だろう。
- グローバルな拠点を目指すには、海外からの研究者が来やすいように生活に必要なインフラを充足するという視点のまちづくりも考えてほしい。
- 県が位置付けている「ヘルスイノベーション」を推進するのであれば、オープンイノベーションに向け、周辺・地元の事業者が関わっていくことが必要ではないか。また、地域の方にどのように健康になっていただけるのかという視点を持ち、「全国・世界に向けた」と「地域」の2層性で考えてほしい。

##### 緑・歴史関連

- この辺りは何年も農業の土地、農村であり、神社は1000年を超えている歴史のある地区だが、この育んできた歴史と、時代変化を共存させたまちづくりを進めてほしい。

- ガイドラインにもある「みどりあふれる」は大切。駅周辺に緑があって、御霊神社があるのはここだけであり、緑とかオープンスペースが主役になるようなまちづくりでもよいのではないか。グリーンインフラが注目されており、防災にも大きな役割を果たす。
- 先にどんなオープンスペースやみどりがあって、その周辺にどのような建物があるのかという順番が逆の発想で検討を進めていくのもよい。
- この地区の長い歴史を踏まえ、物語で語れるストーリーが大事。これまでの地区のコンテキスト、緑や歴史のコンテキストを踏まえて、村岡の「最新章」として、まちづくりを進めていったらどうか。

### 交通関連

- 新駅は単なる乗り換えではなく、結節点としての魅力をどのように作っていくのか。
- シンボル道路は、自動車だけではなく、自動運転や未来の交通についても考えていくことが必要。研究開発拠点にふさわしい二次交通のあり方を考えていくべき。
- シンボル道路の両端はどん詰まりになっているがそれで良いのか。昔から地区に入る道路は狭く限られており、今後、村岡新駅周辺地区外や深沢地区も含めて道路整備をしていかないと、辻堂駅周辺と同じ状況になりかねない。

### 防災関連

- 防災という視点から、レジリエンスは絶対必要な考え方。最近の開発の問題でもある。近年の駅周辺のまちづくりの失敗から学ぶことも重要である。
- 台風の度に柏尾川があふれる。災害に強いまちづくりというのは大きな視点である。

### その他

- 辻堂、藤沢、村岡と拠点の役割が違う。
- 「都市経営」という視点は非常に重要。都市としてどのように利益を生むかというところが大事である。
- 新駅をつくるなら、どうすれば今まで以上に先進的なまちづくりになるか、という+ $\alpha$ のまちづくりが欲しい。
- まちづくりについては、地域とのかかわりも踏まえつつ、考えていきたい。
- 土地区画整理事業を実施する区域だけではなく、御霊神社や神戸製鋼所、湘南アイパーク、そして深沢地区との一体となって考えていかなければならない。周辺を含めて、それぞれの資源が持つコンテンツを組み合わせ、**「出来ることは何か」**を考えてみたらどうか。
- 神戸製鋼所、湘南アイパークなど既存事業者が**「こんなことをやりたい」**と思わせるような刺激を与える計画の検討が必要ではないか。

- 駅が主体ではなく、まちづくりがあるからこそ駅が活きるのではないか。
- この新駅整備及びまちづくりが、市全体にどのような効果を与えるのかを考えていきたい。

#### [まちづくりを進める際の課題]

- まちづくりガイドラインは、先進性があまり感じられない。ゾーニングも、これまでのまちづくりの延長線上であり魅力的ではない。
- 村岡新駅も含めて、周辺がどのように変わっていくのかというところに期待と不安を持っている。
- これまでの計画案は、ひと昔前のまちづくりが残っているように感じる。新たな視点を入れて、新しい拠点をどのように作っていくかを検討していくことが必要である。
- 地権者にとっても様々な事情があるので、その辺も考慮してまちづくりを進めて頂きたい。

#### [その他]

- 地域が変わっていく中で、事業者も共存し、適合していけるように考えていきたい。
- 新駅を設置してくれるのはありがたい話である。
- 地元からは、東海道線ではなく根岸線の駅が良かったという意見もある。
- 新駅整備についてはあくまでまちづくりとセットであると考えている。
- 湘南アイパークの前に成田エクスプレスが操車しているので、成田エクスプレスを新駅から始発で発車したらどうか。
- まちと係る研究開発拠点というのがどういうものなのかについて、次回出して欲しい。
- 深沢地区ではどういったまちを考えているのか、次回出して欲しい。

以上